

～ TEACCH ～

なないろ R7.2.12



サンクスシェア
代表社員 田中 聡

TEACCH理論とは？

- TEACCHとは、「**T**reatment and **E**ducation of **A**utistic and related **C**ommunication-handicapped **C**hildren」の略で、「自閉症及び、それに準ずるコミュニケーション課題を抱える子ども向けのケアと教育」という意味です。
- - 1970年代にノースカロライナ大学で開発
- - 自閉症スペクトラム（ASD）の支援プログラム
- - 個々の特性を尊重し、構造化された環境を提供



ASD（自閉症スペクトラム障害）の特性

ASDとは？

- - 自閉症スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorder）の略
- - 社会的コミュニケーションの困難さ、行動のこだわりや感覚過敏などが特性

ASDの主な特性

- - 社会的コミュニケーションの困難
- - 行動や興味のごだわり
- - 感覚の過敏・鈍麻

社会的コミュニケーションの困難

- - 相手の気持ちを理解するのが苦手
- - 目を合わせない、会話のキャッチボールが難しい
- - 状況に応じた適切な表現が難しい

行動や興味のことわり

- - 特定の物事に強い興味を持つ
- - 同じ行動を繰り返す（例：手をひらひらさせる、同じ道を通る）
- - 予定やルールの変化を嫌う

感覚の過敏・鈍麻

- - 音、光、匂い、触覚などに敏感
- - 逆に痛みや温度変化に鈍感なこともある
- - 感覚の特性が行動に影響を与えることがある

ASD児童の強み

- - 細かい部分に気づく
- - 高い記憶力を持つことが多い
- - 得意な分野では高い集中力を発揮する

ASD児童の困りごと

- - 予測できない状況に不安を感じる
- - 他者との関係構築が難しい
- - 言葉での指示が理解しにくい

ASD支援の基本

- - 視覚的支援を活用する
- - 環境を構造化する
- - 一貫したルールと予測可能なスケジュールを作る



TEACCHの基本概念

TEACCH理論の基本概念

- - 物理的構造化: 環境の整理
- - 時間の構造化: 予定を視覚的に明確化
- - 活動の構造化: 手順の提示
- - 視覚的支援: 絵カード、チェックリストの活用

構造化とは？

- - ASD児童が理解しやすい環境を作ること
- - 予測可能なルーチンを作り、不安を軽減
- - 自立を促すための仕組み



物理的構造化

物理的構造化とは？

- - 環境を整理し、目的別にエリアを明確化
- - 学習、遊び、休憩のスペースを分ける
- - 視覚的な手がかりを配置

物理的構造化の具体例

- - 机の配置を一定にする
- - 個別学習エリアとグループ活動エリアの分離
- - ラベルや色分けでエリアを明確化

物理的構造化



活動の領域別に教室等を区切り、この場所ではこの活動をするというように、活動と場面を対応させて構成する



教科ごとにグループを替える
机の配置や向きを変えるなど

【特別教室】

いつも一定の活動をするので、
何をするのがわかりやすい



教室の後ろにイスを用意して
休憩する場を作る など



物理的構造化2



【活動ごとに教室を区切り活動と場面を対応】
着替え、学習、食事等をする場所を区切る

個別の教材
置き場

学習する
場所



着替えの場

遊び場



時間の構造化

時間の構造化とは？

- - 1日の流れを明確にする
- - 予測可能なスケジュールを提示
- - 活動の開始・終了を明示

時間の構造化の具体例

- - 視覚的スケジュールを作成（写真、絵、文字）
- - タイマーや時計を活用
- - 活動ごとの時間配分を固定

時間の構造化

ひにち ようび	8 日	9 月	10 火	11 水	12 木	13 金	14 土
よてい							
	いえ	ようちえん	ようちえん	ようちえん	ようちえん	ようちえん	いえ
			りょういく		りょういく		ハンバーガー
ひにち ようび	15 日	16 月	17 火	18 水	19 木	20 金	11 土
よてい							
	おでかけ	ようちえん	ようちえん	ようちえん	ようちえん	ようちえん	家
	どうぶつえん		療育		療育		
			ようちえん	家	プール		



スケジュールボード

自閉症 | 発達障害 ▶ スケジュールボード

1学級あたり1程度

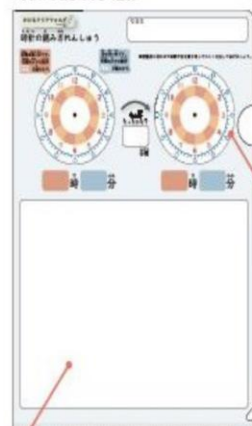
「えんぴつで書けるクリアフォルダ」×「スケジュールボード」。

スケジュール(表)



- スケジュール帳
 - ・時間別変更や移動教室の行き先などを書きます
 - ・時計の読み方の学習にもおススメです

時計の読み方(裏)



- 時計の読み方
 - ・習熟度に合わせてヒントを書いて練習します

使い方



- フリーメモ欄
 - ・持ち物リストとして
 - ・先生・保護者間の連絡メモなど
 - ・使い方は自由です

- 急な予定変更も書いて消して自分で管理。
- 持ち歩きやすいクリアフォルダなのでいつでも予定を確認できます。



セット内容
5枚組

ウチタ 書けるクリアフォルダ たのしいいちにち・時計の読み方 5枚組

型番	種別	本体価格	税込価格
8-340-0444	たのしいいちにち・時計の読み方	¥2,000	¥2,200

●材質:書けるPPシート ●寸法:310(縦)×220(横)mm ●シート厚:0.2mm ●A4判 ●セット内容:5枚組

関連品 Look P.68に書けるクリアフォルダ きもちモニター 怒り/悲しみ、P.267に書けるクリアフォルダおはなしメモ・なぞり書き練習帳を掲載しています。

時間の構造化

すぐに使えるスケジュールボードとカードのセットです。

- タスクカードはカラー版もあり、決まった予定を色で識別する、といった使い分けも可能です。



(セット内容)



縦において1日のみとおしに



横において一週間のスケジュールに

マグネット
シート

ウチタ たのしいいちにち 学習者用

型番	本体価格	税込価格
8-343-0214	¥5,820	¥6,402

●材質: マグネティックシート ●セット内容: カード35枚(数字×6、曜日×5、時計×6、タスク×12、絵カード用白紙×6)、マイボードS-A4×1 ●イレーザー付マーカー(黒)1本付

関連別売品

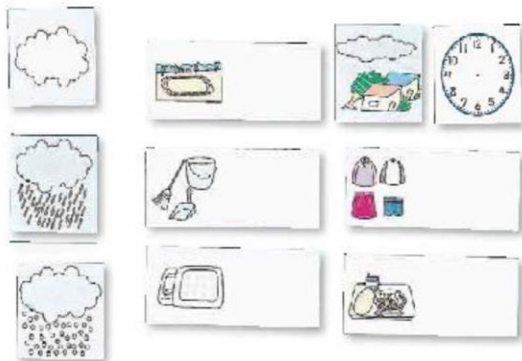
型番	種別	本体価格	税込価格
8-343-0225	たのしいいちにち	¥4,800	¥5,280
8-231-7020	マイボードS-A4	¥1,020	¥1,122

時間の構造化

文字とイラストで一日の活動をわかりやすく提示します。

安全

- 文字をホワイトボードマーカーで記入し、一日の活動をわかりやすく提示します。
- 文字・イラストを手がかりにすることで、よりわかりやすくなります。

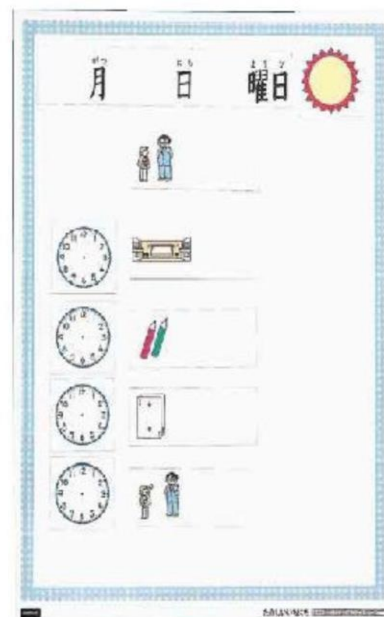


マグネットシート

ウチタ たのしいいちにち 教授用

型番	本体価格	税込価格
8-342-0017	¥23,000	¥25,300

●材質:PET樹脂マグネットシート ●寸法:本体シート(850×600mm)、付属カード/単元カード(80×200mm)10枚、日付カード(80×400mm)1枚、時計カード(100×100mm)5枚、天気カード(100×100mm)5枚 ●付属品:マーカー3本(黒・赤・青)、ラール1個



(使用例)

※デザインが変わる場合があります。



活動の構造化

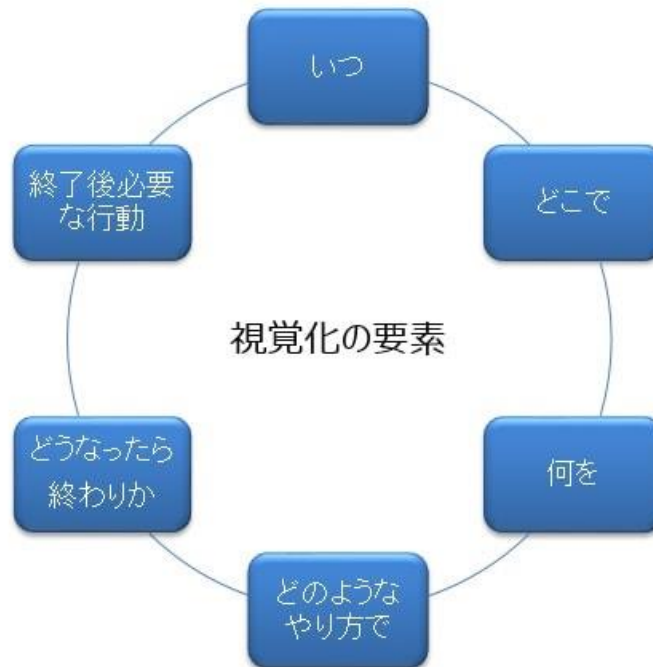
活動の構造化とは？

- - 何をするか、どのように進めるかを明示
- - 一貫した手順で指示を提示
- - 自立して作業できる環境を作る

- ①どんな活動（学習や作業）をするのか
- ②どのくらいの時間、あるいは量の作業や活動をするのか
- ③その課題や活動はいつ終わるのか
- ④終わった後は何をするのか、何をしてもよいのか

活動の構造化とは？

<視覚化の際の6つのポイント>



「視覚化の視点」をもって、さまざまな構造化を行う

活動の構造化の具体例

- - 作業手順のリストを作成
- - チェックリストの活用
- - 完了したことが分かるように工夫

活動の構造化



てをぬらす



せっけんをてにだす



せっけんであらう



みずでよくながす



ペーパーたおるでふく



こップにみずをいれる



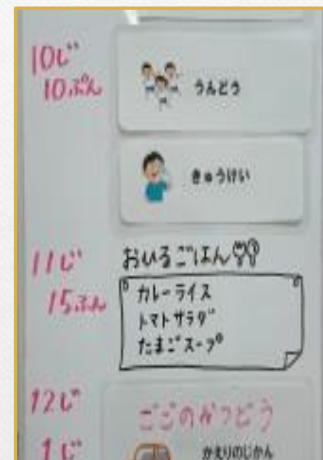
くちにみずをふくむ



うえをむいてうがいをする



みずをだす





視覚的支援

視覚的支援とは？

- - 言語情報だけでなく、
視覚的手がかりを提供
- - ASD児童の理解を助ける
- ツールとして活用

視覚的支援の主な目的

- - 指示の理解を助ける
- - 予測可能性を高め、
不安を軽減
- - 自立を促す

視覚的支援の種類

- - 視覚的スケジュール
- - 絵カード（PECS）
- - チェックリスト
- - 色分け・シンボル活用

視覚的スケジュールとは？

- - 1日の流れを明確にする
- - 活動の開始・終了を明示
- - 児童の見通しを持たせる

視覚的スケジュールの具体例

- - 写真や絵カードを用いたスケジュール
- - 時計やタイマーを活用
- - 個別に調整可能な形式

見える形で整理して伝える



見える形でわかりやすく指示する



視覚的支援

より明瞭化して伝える



絵カード（PECS）とは？

- - 言語が苦手な児童に有効
- - 選択肢を明確にする
- - 具体的な行動を促す

PECSの活用方法

- 1. コミュニケーションの方法
- 2. 距離と持続性
- 3. 絵カードの弁別
- 4. 文構成
- 5. 応答による要求
- 6. コメント

視覚的支援



チェックリストとは？

- - 何をすべきかの順序を視覚化
- - 完了状況を確認しやすい
- - 自立した行動を促す

チェックリストの具体例

- - 朝の準備リスト
- - 授業の持ち物リスト
- - 活動ごとのタスク管理

色分け・シンボル活用とは？

- - 情報を直感的に伝える方法
- - ASD児童が情報を処理しやすくする

色分け・シンボル活用の具体例

- - 赤 = やめる、緑 = 進む
- - マークやアイコンを活用
- - 文字が読めない児童にも有効

視覚的支援の効果

- - 不安の軽減
- - 自立支援の促進
- - コミュニケーションの向上

視覚的支援を活用する際のポイント

- - 児童に合った方法を選ぶ
- - 一貫性を持って使用
- - 定期的に見直しを行う



支援の進め方

支援の進め方①：個別スケジュール

- - 児童の理解しやすい形式で作成
- - 写真・イラスト・文字などを活用
- - 1日の流れを具体的に示す

支援の進め方②：作業システム

- - 「何をするか」「どのようにするか」「終わったらどうするか」を明示
- - 作業を視覚的に整理し、順序を明確化

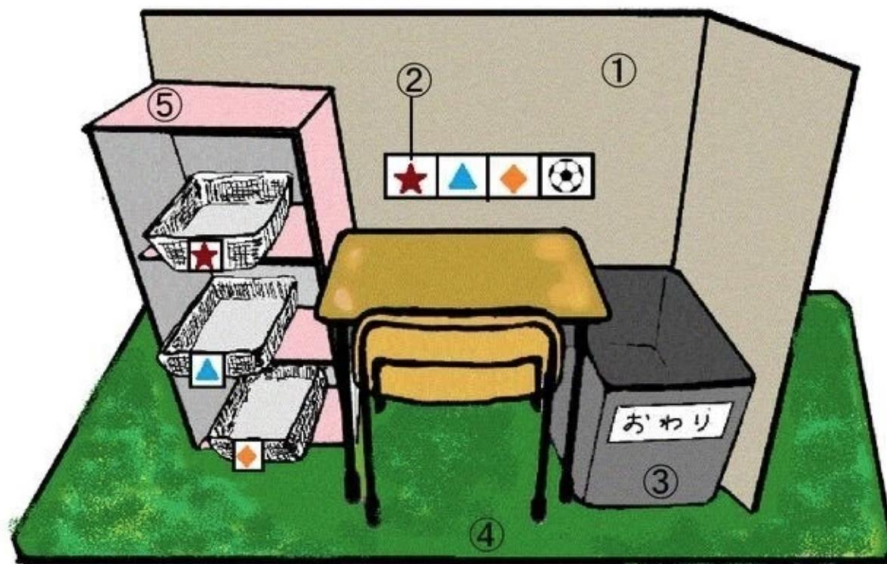
解説 | ワークシステム

■ 自立的活動をするための情報を伝える方法

- 自立的に活動するために
自閉症の人が一人で活動できるように4つの情報を伝える
①何をするのか、②どれぐらいするか、③どうなったら終わるのか、
④終わったら次に何をするか
- ワークシステムの種類
 - 実物を並べる
 - マッチングを使う
(絵・形・文字・記号など)
 - リストを使う (単語や文章)
 - フィニッシュボックスの使用
 - 時には、本人の興味があるものや
キャラクター等を使う



解説 | ワークシステムの一例

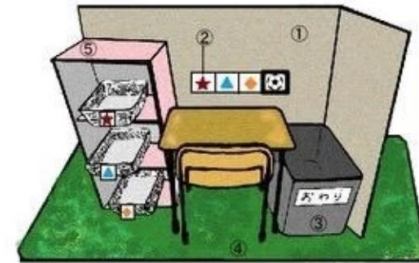


- ①間仕切り用パーテーション
- ②ワークシステム（形カードのマッチング）
- ③フィニッシュボックス
- ④色分けされた床（敷物）
- ⑤課題や作業の材料棚・材料かご

解説 | ルーチン (習慣化)

- いつも、同じ手順で課題を行う

→上から下へ、左から右へ



- 習慣化することで、普段の生活を安定したものにします

例1) ガンダムのフィギアを棚から出す
→見て余暇を過ごす →棚に戻す

例2) 鼻をかむ →ゴミ箱に捨てる



- ルーチンを使って繰り返しているうちに学習する

支援の進め方③：環境設定

- - 適切な環境を用意し、支援のしやすさを向上
- - 集中しやすいスペースを作る
- - 静かな環境を確保

支援の進め方④：行動の理解

- - 「困った行動」の背景を分析し、適切な対応を考える
- - 行動の原因を特定し、支援方法を工夫する

支援の進め方⑤： コミュニケーション支援

- - 児童が伝えやすい方法を提供
- - 絵カードやジェスチャーの活用
- - 言葉だけでなく、多様な支援を導入



家族の役割

TEACCHにおける家族の役割

- - 家族は支援の中心的な存在
- - 専門家との連携を強化し、一貫した支援を行う
- - 子どもの成長と発達を促進する環境作り

家族と専門家の協力

- - TEACCHは「家族中心型アプローチ」を採用
- - 家庭と支援施設が情報共有を行い、統一した支援を提供
- - 家庭でも実践できる方法を学び、継続的な支援を行う

家庭における環境の構造化

- - 家庭でも物理的・時間的・活動的な構造化を実施
- - 学習、遊び、休憩のエリアを明確に分ける
- - 家庭内のルーチンを一貫させ、予測可能性を高める

時間の構造化のサポート

- - 1日の流れを明確にし、視覚的スケジュールを活用
- - 活動ごとの時間を決め、開始・終了を視覚的に提示
- - 予測可能なルーチンを作ることで安心感を提供

活動の構造化のサポート

- - 何をするか、どのように進めるかを明示
- - 視覚的手がかりを利用し、子どもが自立して取り組める環境を作る
- - スモールステップで支援し、達成感を持たせる

視覚的支援の活用

- - 言葉以外の手がかりを提供し、理解を助ける
- - 絵カード、スケジュール、色分け、チェックリストを活用
- - 家庭と施設で一貫した方法を使用する

家族の関わり方①： コミュニケーション支援

- - 子どもの理解しやすい方法で伝える
- - 言語だけでなく、ジェスチャーや視覚的手がかりを活用
- - 子どもが表現しやすい環境を作る

家族の関わり方②：ストレス管理

- - ASD児童は環境の変化に敏感
- - 落ち着けるスペースを作る
- - 感覚過敏への配慮を行い、ストレス軽減の工夫をする

家族の関わり方③：行動の理解

- - 「困った行動」の背景を考え、適切な対応を工夫する
- - 一貫した対応を行い、子どもにとって予測可能な環境を作る
- - ポジティブな関わり方を重視

家族の関わり方④： 日常生活の習慣作り

- - 生活の中で予測可能なルーチンを作る
- - 朝の支度や食事、入浴などのスケジュールを明確化
- - 一貫性のある習慣を確立し、自立を促す